

上条遺跡発掘調査略報

昭和42年8月

山ノ内町教育委員会

## はじめに

上条区内に所在する遺跡については信濃考古学資料上37頁に、四ツ塙一平地一縄文（加曾利E）、和田（すみれん）一山麓一縄文（勝坂・加曾利E）上条一石桿（縄文）と登載されている。「下高井」143頁にも簡単であるが、縄文中期の遺跡が所在するとのせている。

去る昭和40年3月未庄に山内町統括課資料を叢書するため渋本直治氏宅を訪問した時に、ほぼ完形の縄文中期未と推定される土器／点と土器片多數、打製石斧又／点と、見事な石凹／点を見せていただいた。出土地は同氏所有の中原4タノ番地の水田で去年田の畔道しの際に採集されたとのことであった。

町説稿纂の資料に発掘調査を計画し、地主の渋本氏に依頼したところ承諾され、そこで調査を実施する運びになったゆりである。地主渋本氏の尊意に心から感謝する次第である。

## 発掘調査担当

発掘調査責任者 山内町教育長 宮崎 兼

顧問 長野県文化財専門委員会 金井喜久一郎

調査担当者 日本考古学会会員 金井源次

調査員 長野県考古学会会員 西川幸生

調査員 山内町教育委員会 滝沢善次郎

長野県考古学会会員 小野沢健

山上石八

畔上秀雄

立正大学生 金井正彦

調査協力 日本地質学会会員 中村二郎

高社中学校工クラブ 丁慶

山内中学校 有元

## 言局査日記

3月26日(日) 晴

発掘調査計画日にあたり、腰代者は上条公民館へ午前9時集合した。発掘の趣旨の説明が行われ、各担当者へ要領がなして会合終了した。その後ただちに現場へ赴き、午前10時より作業を開始。水日の恵に平行に2.2m×1.5mのトレーニテを設定し、長さ又れづつに区切って四名を1ヘク区とした。

南側の壁陰には相当の残雪があり、折からの日照で解けたため、氷が流れ出して作業は難済した。表土下約30cmまで砾層ごとき透かしが出土した。

区名	1-6	1-5	1-4	1-3	1-2	1-1
全 遺 物	工藝片多 石匙1	土器片	打石斧片1 工藝片 馬蹄石片3	工藝片 黒曜石片3	工藝片少	打石斧片 石錐片1

3~6区にかけては石塊が多く、特に6区は耕作に支障があってか、石塊を抜いた跡がいくつかあった。午後4時作業中止。

調査 金井波次、浦沢昌次郎、小野天津、金井文司

参考 金井魯久一郎 小山信正

3月27日(月) 午後晴

昨夜半から雨となり量も相当なものである。午前10時すぎまで降りつづき、そのため作業は正午まで実施することができなかつた。

午後作業を始める。南風が強くなり気温も上昇して20度位となり汗を流して調査をした。表土は灰黒色で22~25cmの層をなし、その下に黑色土層があつた。本日の作業の中止は又へく区におひだ。

表土下約30cmまで遺物が出土した。午後5時作業中止

区名	1-6	1-5	1-4	1-3	1-2	1-1
空 遺 物		黒曜石	打石斧/ 土器片 木炭片 石鏡/	土器片多	土器片多 打石斧ニ 焼石	

調査 金井波次、田川幸生、金井正考、金井文司

3月28日(火) 晴後晴夕豪山小雨

午前9時作業をはじめる。朝から北風が強く非常に寒い一日だった。午後は時に強風で、そのうえ午後3時頃からト雨が吹いて作業の困難をきわめた。

作業協力者が多く調査はいちらしく進捗した。カノトレントは表土下80~90cmまで掘りさげ1~3区に柱穴と思われるピット3個を検出した。遺物の出土は本日が最高で遺物の多数出土する从へ3区の北側を掘りし、2-1、2-2ヒレた。拡張区は表土下約30cmまで掘りさげた。

区名	1-6	1-5	1-4	1-3	1-2	1-1
空 遺 物	土器片少	土器片 焼石	土器片多 杷手/ 石鏡/ 木炭片 黒曜石/	土器片多 杷手/ 打石斧3 (ピット)	土器片 木炭片 ピット(4個)	土器片 杷手/ 石鏡/ 黒曜石片/ (ピット)

2-2	2-1
土器片 杷手ニ 黒曜石片/	土器片 打石斧/

調査 金井波次 田川幸生 滝沢善次郎 小野次雄 山上右八

参考 金井正考 附上秀雄  
宮崎洋次 濑木直治

3月29日(水) 晴

午前9時30分作業開始。一日中快晴で作業には好都合であった。

昨日から検出がはじまつた柱穴状ピット附近を精査する。表土下約1mの褐色粘土層中に3個のピットを確認し、ピット/へ3とする。

折から地質研究の巡回中の中村二郎教授は、褐色粘土はソフトロームで高社山周辺に分布するものと同質であろうとの教示を得た。

昨日夜裏した2-1, 2-2区を精査し、夕刻までに土器片多數と石器をとりあげた。ピットの検出状態から北に向へ発展するのではないかと想定し、又-3区を設定し、表土下約60cmを掘り下げ土器片、把き片3、黒曜石片多數を得た。午後4時30分作業中止

調査 金井政次 中村孝之 金井正彦

調査協力 中村二郎

3月30日(木) 曇

午前10時より作業を開始したが、作業員の数が急減して意図的に調査をすすめることにした。しかしひびット/へ3の構造を探るために北方向へ又-4区を掘削した。今までの場所と違って礫はほとんど見あたらず、1個の幼児頭大のものがあつた。土器片少量と打石斧/石鎌/が出土したのみであった。1-3区北側の地表下にピット/個を検出、径45cmの円形を中心、小さな礫と土器片2点を発掘した。また1-4区南側のトレンチ壁下に柱穴状ピットを発掘し、土器片が数点あった。その周辺から黒曜石片数片と打石斧/点を得た。

調査 金井正彦、金井文司

3月31日(金) 晴

作業開始午前9時30分 昨日に引き続き柱穴とおぼしきピットの発掘につとめ、午前中にその作業を終る。 午後は附近の地形及び発掘地の実測を行なつた。 天、雲東北東を向いた。 関係各方面にあいさつをするや午後4時にすべてこをさして。

調査 金井段落、飛行場跡、金井河岸、金井支所

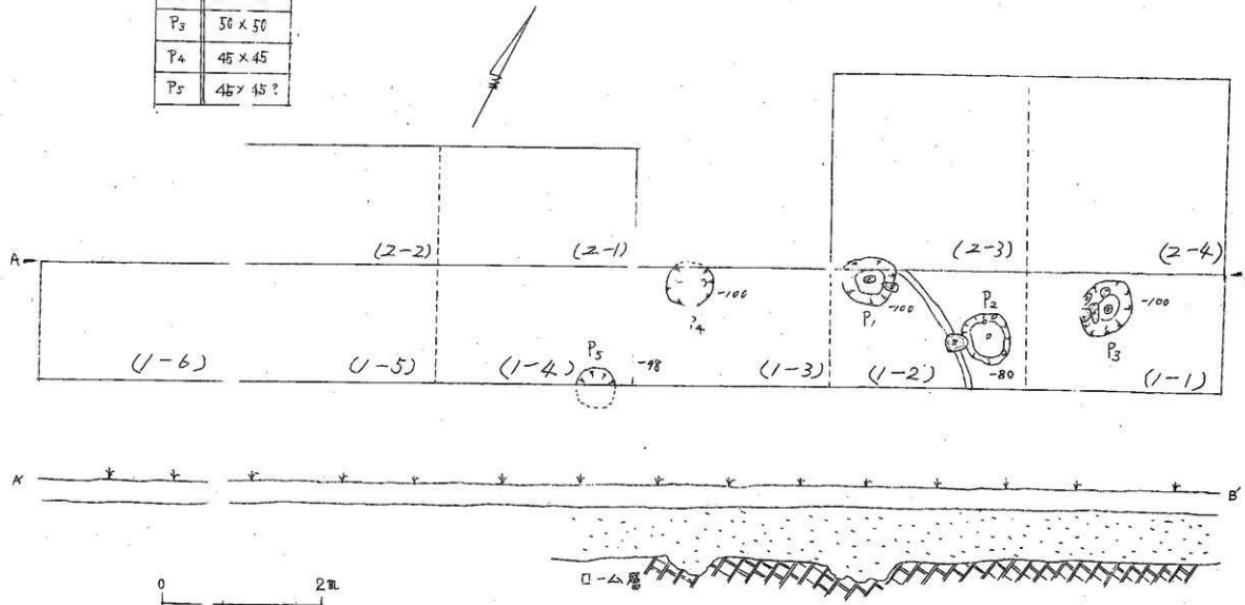
### おわりに

1. 終始調査が出来ぬまことに、かり3日まであつて間にわたりて実施せし調査運営のむごたをうかがふる。
2. 飛行場空地にはまことに立派な 大柱穴がピットの性格については、どうく仕石の地へと運搬されるか 空地はさすがに飛行場跡にてあり全行を行ひかにしたい。
3. 塗装によつて残念された道のなつかのじつひで3つだ。

合計	表数	2-4	2-3	2-2	2-1	-1	1-5	1-4	1-3	1-2	1-1	区 種別
132	55	15	66	27	78	0	111	141	123	1	20	工場
16			2	4	1	1	6	2		1		挖き土
31		3	1		3	9	13	4	2			石
2						1	1			1		瓦
49	5					7	11	13	5	1	6	黒曜石

上条遺跡 ブレニチ及び断面実測図

P <sub>1</sub>	55 × 50 cm.
P <sub>2</sub>	60 × 50
P <sub>3</sub>	56 × 50
P <sub>4</sub>	45 × 45
P <sub>5</sub>	45 × 45 ?





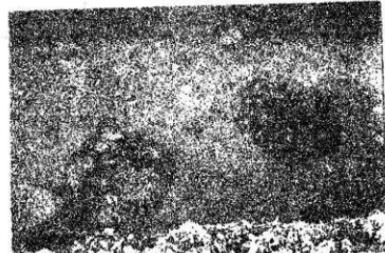
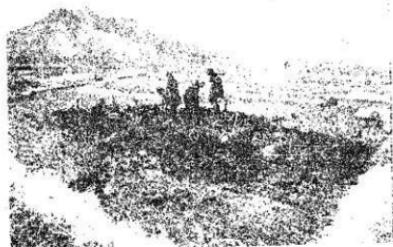
遺跡地圖



毫樣狀況



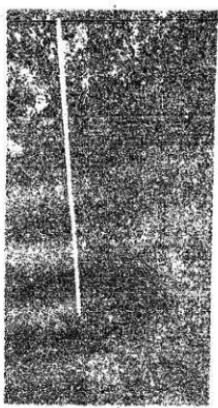
砾石



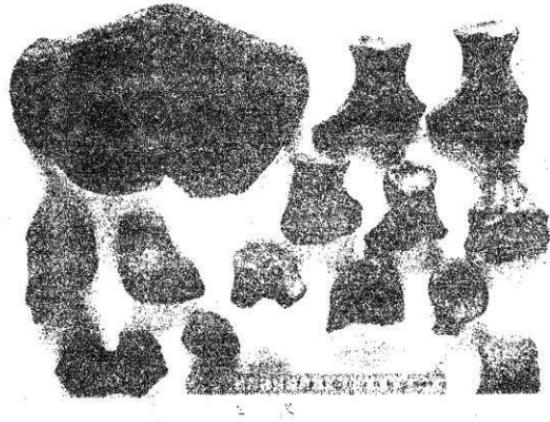
67 6 1



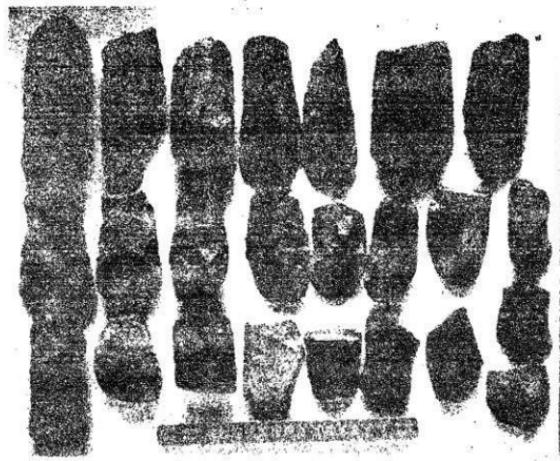
ゴツト群



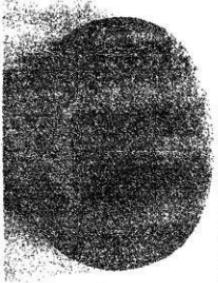
ピット(P4)



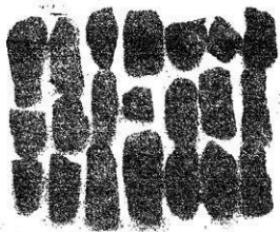
石器



石器



石器



石器(湯本直治氏蔵)

